

2022年3月期 第3四半期

(2021年4月~2021年12月)

決算補足説明資料

2022年2月4日



1. 2022年3月期 第3四半期 決算概要

2. 2022年3月期 第3四半期 事業概況

3. 2022年3月期 業績見通し

- 5G対応スマートフォン・PCなどの需要や、DX・通信・データセンターへの投資拡大など、半導体材料は全ての領域で高水準が継続。
- 原燃料の高騰やグローバルロジスティクスの混乱があったものの、半導体・電子材料の旺盛な需要に対応する増産により、前年同期実績に対し、売上高・利益全てで増収・増益を達成。

	2021.3月期 3Q実績値 (百万円)	2022.3月期 3Q実績値	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	※19,823	23,873	※+4,049	※+20.4%
営業利益	2,139	3,323	+1,183	+55.3%
経常利益	2,086	3,342	+1,256	+60.2%
四半期純利益	1,412	2,289	+876	+62.1%
為替レート (USD)	¥105.8/\$	¥110.9/\$		

※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)を適用しております。
 この結果、前第3四半期累計期間と会計処理が異なります。
 前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

- 半導体・電子材料の旺盛な需要を背景に通期業績公表値（修正前）に対する進捗率は、売上高79%、各利益90%以上。
- 利益は、中期経営計画「TGC300（売上高300億、経常利益30億以上、経常利益率10%以上）」を1年前倒しで達成。

	2022.3月期 (百万円) 業績予想 (修正前)	2022.3月期 3Q 実績	進捗率
売上高	30,000	23,873	79.6%
営業利益	3,550	3,323	93.6%
経常利益	3,400	3,342	98.3%
当期（四半期）純利益	2,400	2,289	95.4%
1株当たり当期（四半期）純利益	302.38円	288.40円	

■売上高

23,873百万円（前年同期比※+4,049百万円、※+20.4%）

- ✓ 感光材：半導体用途、ディスプレイ用途ともに好調が継続。
- ✓ 化成品：電子材料向けの高純度溶剤などが増加、香料製品も好調に推移。
化学品の急激な需要回復による価格高騰により価格反映を実施。
ロジスティック事業は、旺盛な化学品需要や在庫確保のニーズにより、荷動き量が増加。

■営業利益

3,323百万円（同+1,183百万円、+55.3%）

- ✓ 生産能力増強に伴う労務費・償却費、原材料・燃料・物流コスト等の費用増を、増産により吸収し増益。
- ✓ 全社的に高付加価値製品の販売の加速に伴い、工場稼働は当初計画より上昇。

■経常利益

3,342百万円（同+1,256百万円、+60.2%）

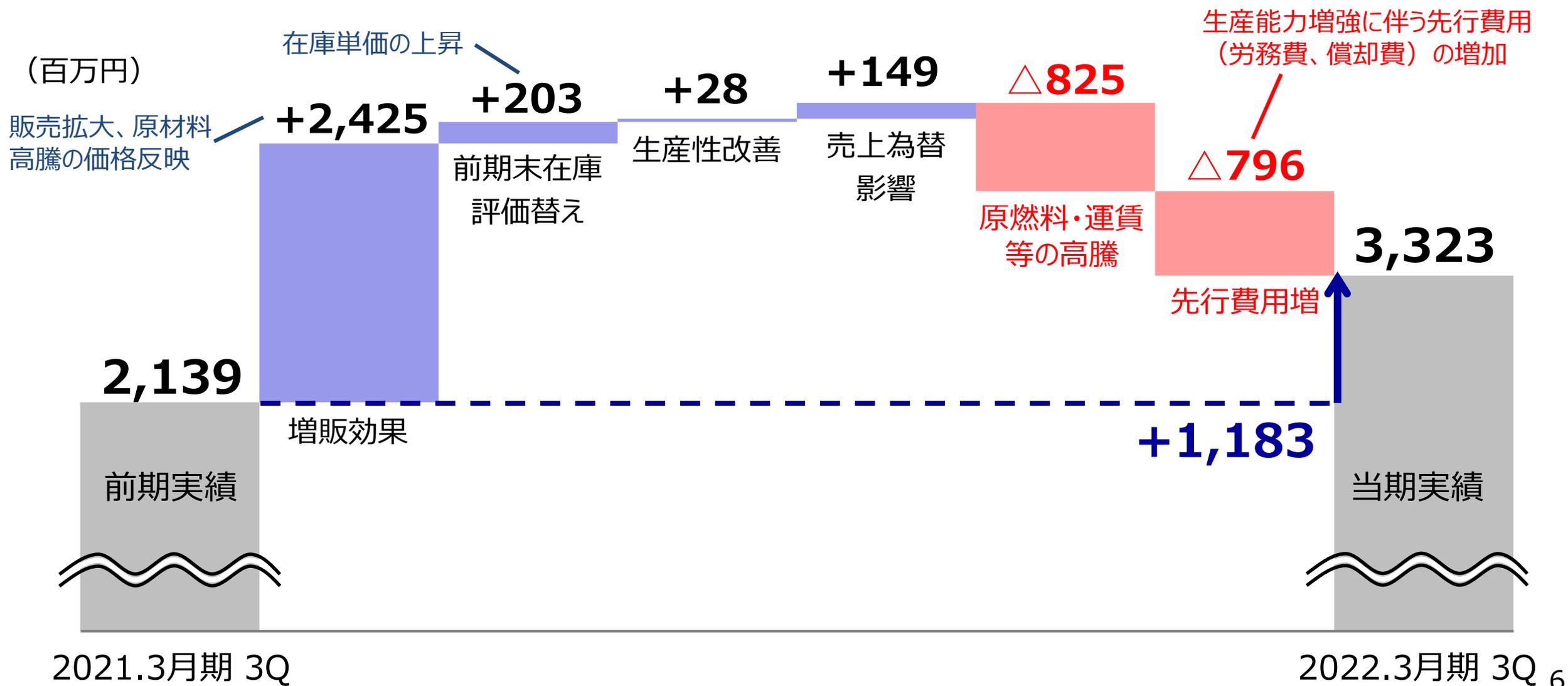
- ✓ 円安により為替差益発生（前年は為替差損発生）

■当期純利益

2,289百万円（同+876百万円、+62.1%）

営業利益 前年同期比 増減要因

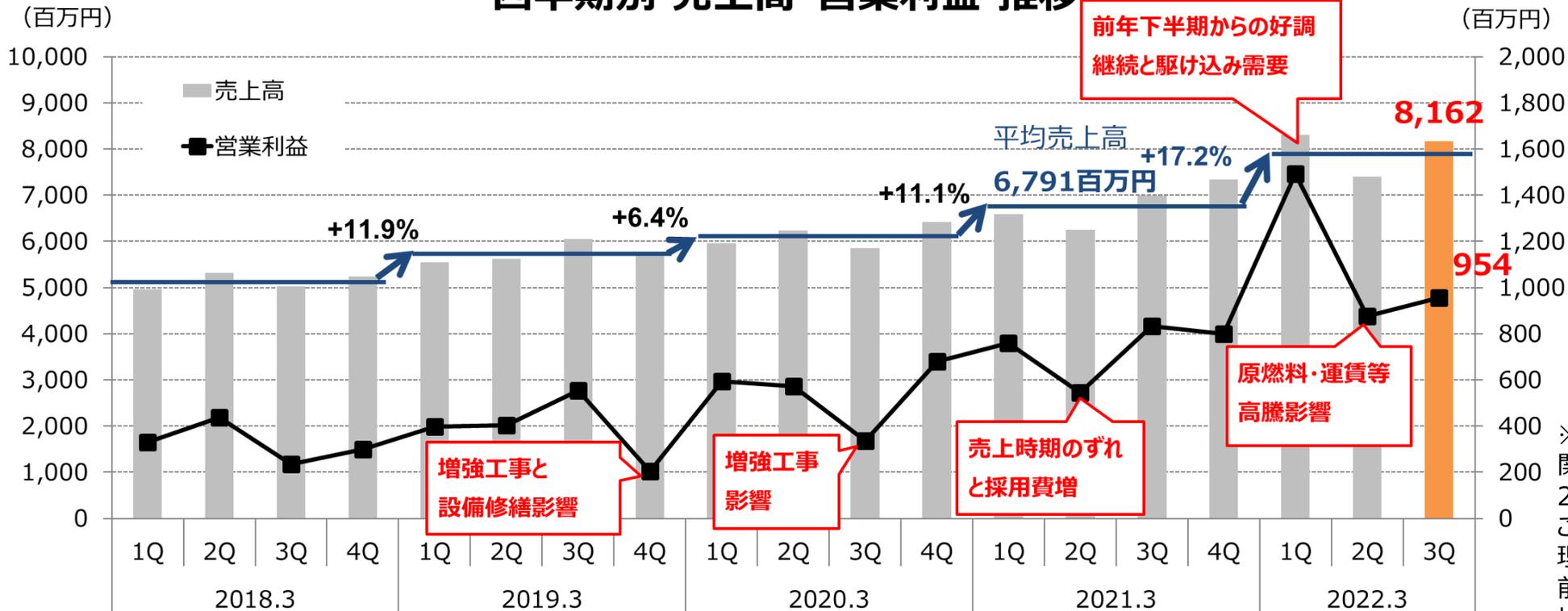
- 販売拡大、原材料の価格高騰に伴う価格反映により、成長投資、原材料・燃料・物流コスト等の費用増を吸収し、増益。



四半期別 売上高・営業利益推移

- 第3四半期（10-12月）の売上高は販売の増加、原材料高騰に伴う価格反映により、8,162百万円（前年同期比+1,174百万円、+16.8%）と高水準で推移。
- 営業利益は954百万円（同+121百万円、+14.6%）の増益を達成。
- 旺盛な需要は継続しているものの、引き続き原材料・燃料・物流コスト等の高騰リスクあり。

四半期別 売上高・営業利益 推移



※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）を適用しております。この結果、前第3四半期累計期間と会計処理が異なります。前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

2022年3月期 第3四半期 損益計算書

- 売上高は、23,873百万円（※前年同期比+4,049百万円、※+20.4%）。
- 販売の増加により、先行費用を吸収し、増益。
- 売上総利益率は、高付加価値製品の増販と工場稼働率向上により2.2ptの改善（23.1%→25.3%）。

(百万円)	2021.3月期 3Q	2022.3月期 3Q	増減額	増減率
売上高	※19,823	23,873	※+4,049	※+20.4%
売上原価	15,242	17,826	+2,584	+17.0%
売上総利益	4,581	6,046	+1,465	+32.0%
販売管理費	2,441	2,723	+281	+11.6%
営業利益	2,139	3,323	+1,183	+55.3%
営業外収益	113	127	13	+12.3%
営業外費用	167	108	△58	△35.0%
経常利益	2,086	3,342	+1,256	+60.2%
特別損益	△29	△32	△3	-
税引前四半期純利益	2,056	3,309	+1,252	+60.9%
法人税等合計	644	1,020	+376	+58.4%
四半期純利益	1,412	2,289	+876	+62.1%

[売上総利益 +1,465]
売上総利益率が2.2pt改善

※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）を適用しております。この結果、前第3四半期累計期間と会計処理が異なります。前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

2022年3月期 第3四半期 貸借対照表

- 棚卸資産は、戦略的な原材料の安定確保により1,192百万円の増加。
- 有形固定資産は、新設備の取得もあるが、既存設備の減価償却も進み、△806百万円の減少。
- 有利子負債は、利益の増加により、△1,575百万円の減少。
- 株主資本は、当期純利益の増加により2,088百万円の増加。
- 自己資本比率は33.9%（前期末比+4.5pt）。

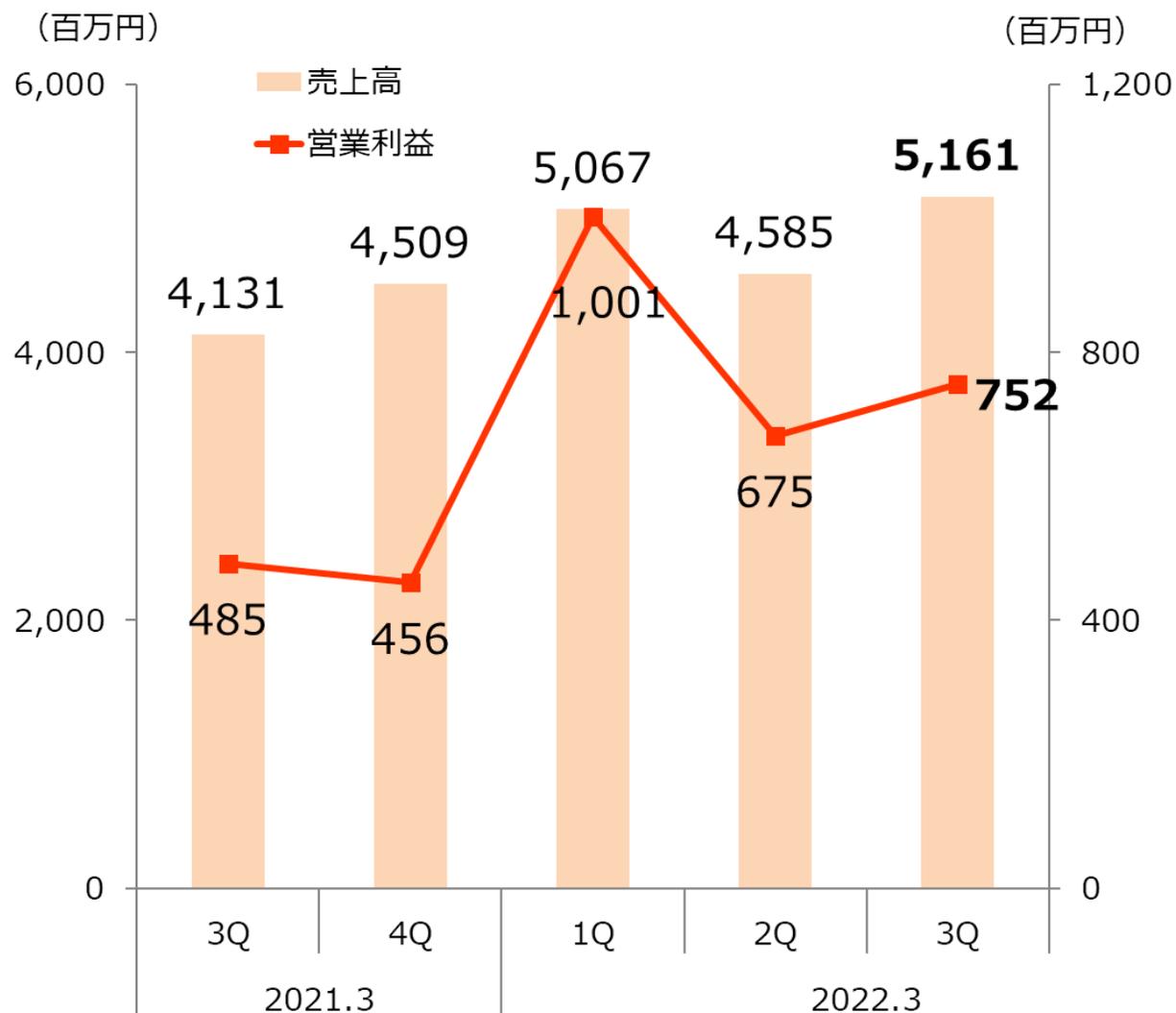
(百万円)	2021.3月末	2021.12月末	増減額		(百万円)	2021.3月末	2021.12月末	増減額
流動資産	16,998	18,307	+1,309	負債	30,727	28,982	△1,745	
現金預金	3,794	3,676	△118	仕入債務	3,470	5,370	+1,899	
売上債権	5,386	5,858	+471	有利子負債	19,987	18,412	△1,575	
棚卸資産	6,983	8,175	+1,192	その他	7,269	5,199	△2,070	
その他	833	597	△235					
固定資産	26,520	25,554	△965	純資産	12,790	14,880	+2,089	
有形固定資産	24,908	24,101	△806	株主資本	12,750	14,839	+2,088	
無形固定資産	523	521	△1	評価・換算差額等	40	40	0	
投資・その他	1,088	931	△157					
資産合計	43,518	43,862	+344	負債・純資産合計	43,518	43,862	+344	

1. 2022年3月期 第3四半期 決算概要

2. 2022年3月期 第3四半期 事業概況

3. 2022年3月期 業績見通し

売上高・営業利益



売上高：14,813百万円

(前年同期比※+3,346百万円、※+29.2%)

- 旧世代半導体用途は好調に推移。
- メモリ用途は堅調に推移。
- ロジック半導体用途は強い需要が継続。
- ディスプレイ用途も高水準での生産が継続。
- 感光材・ポリマーともに販売が増加。

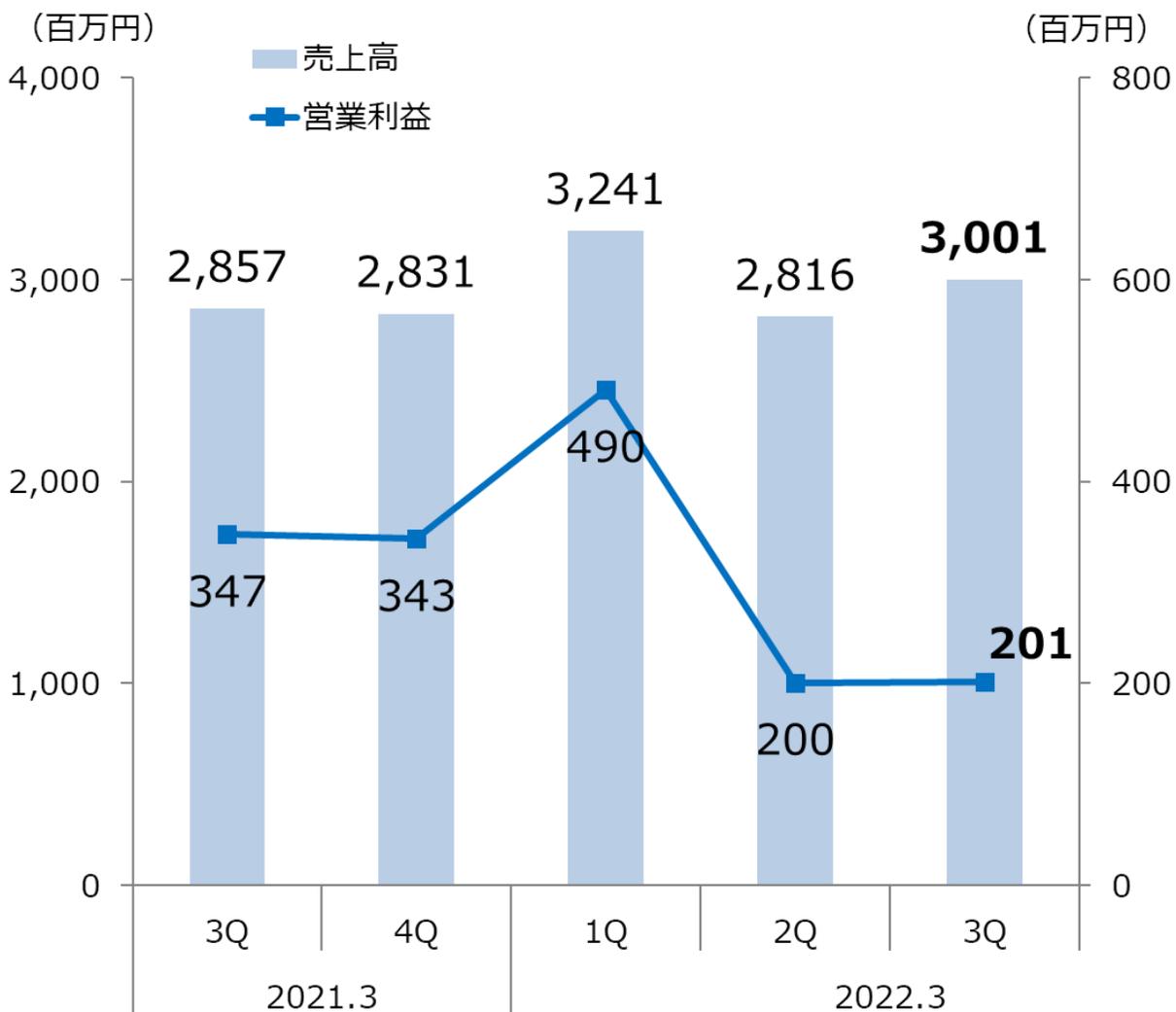
営業利益：2,430百万円

(同+1,062百万円、+77.7%)

- 半導体用途、ディスプレイ用途全ての領域での増産により設備能力増強に伴う労務費・償却費の増加を吸収し、増益。

※収益認識会計基準等の適用により、従来の方法に比べ、売上高は320百万円の減少。前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

売上高・営業利益



売上高：9,059百万円

(前年同期比※+703百万円、※+8.4%)

- 電子材料向け高純度溶剤は好調継続。
- 香料材料は堅調に推移。
- 原材料高騰に伴う価格反映を実施。
- ロジスティック事業は、旺盛な化学品需要や在庫確保のニーズにより、荷動き量が増加。

営業利益：893百万円

(同+120百万円、+15.7%)

- 物流の混乱はあったものの、需要拡大に伴う増産や安定供給に取り組み、増益。

※収益認識会計基準等の適用により、従来の方法に比べ、売上高は489百万円の減少。前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

1. 2022年3月期 第3四半期 決算概要

2. 2022年3月期 第3四半期 事業概況

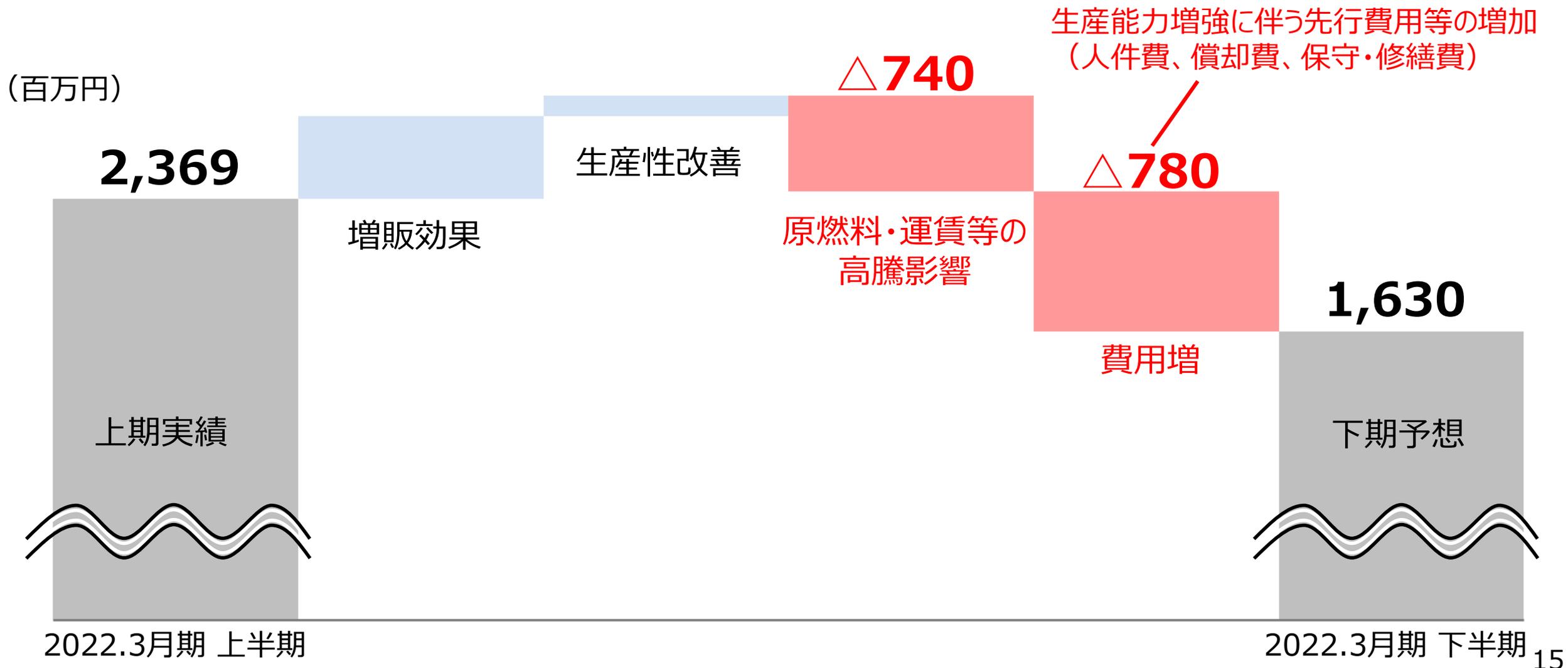
3. 2022年3月期 業績見通し

- 旺盛な半導体需要を背景に通期業績予想を上方修正。
- 今後も半導体材料を中心に販売が好調に推移する見通し。
- 中期経営計画のさらなる超過達成に向け、生産能力増強および増産を継続。

	修正前	2月4日 業績予想修正後		増減額	増減率
	2022.3月期 業績予想 (百万円)	2022.3月期 業績予想			
売上高	30,000	32,000		+2,000	+6.7%
営業利益	3,550	4,000		+450	+12.7%
経常利益	3,400	4,000		+600	+17.6%
当期純利益	2,400	2,800		+400	+16.7%
1株当たり当期純利益	302.38円	352.78円			

(補足資料) 2022年3月期 下半期の増加費用

- 引き続き、原油と原材料価格の高騰、物流の混乱が続く見込み。
- 工事・定期修繕、人員増に伴う費用は、計画通り実施。



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

 東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。